

O JAPAN

ORIENTEERING JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

'92/11

1992年〔平成4年〕11月10日発行

(毎月1回10日発行)

第9巻第11号 通巻第112号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



植物性

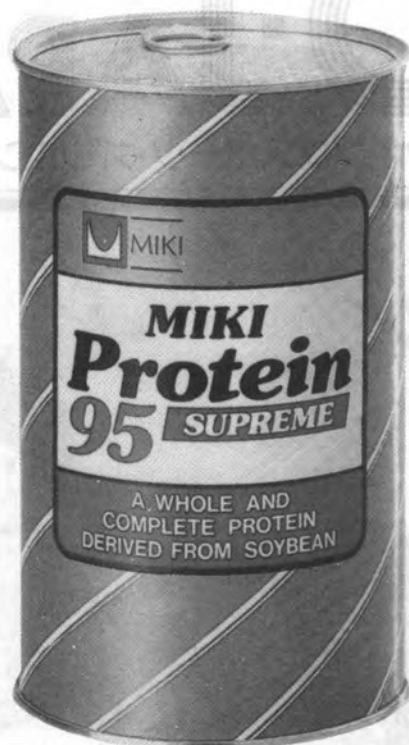
- 持久力・体力……健康の維持
- ノンコレステロールです

プロテイン95

- 皮膚・毛・目・爪・筋肉組織・分泌腺・血・
- ホルモン等すべてプロテインで出来ている

レシチン

- 脳神経系統内分泌腺及び心筋成分
- コレステロール分解



● お問合わせはO-JAPAN編集部まで

オリエンターリング地図印刷

社内報 団体・サークルの機関紙 記念誌
PR誌 学校新聞 句集 歌集 詩集

あしび印刷 有限会社

〒220 横浜市西区西戸部町3-298
神奈川県教育会館前
☎045-231-5970 (代)

ORIENTEERING JAPAN
O・JAPAN もくじ
 92/11月号・No.112

- 学生ショートO馬籠大会
 取材：桐田 幸宏
 編集：岩出 雅人4-7
- 競技の活性化の観点から見た
 ショート・インカレの意義
 村越 真8
- =イベント・リポート=
 「第19回岡崎市O大会」
 「92年度第3回東海学連定例戦」
 「第12回山口大学工学部大会」
 「第5回全国スポ・レク祭
 オリエンテーリング大会」
 「埼玉・小川オリエンテーリング大会」
 「第2回岐阜県スポ・レク祭
 オリエンテーリング大会」
 小野 盛光, 財間 定義
 水野 博司9-10
- =O-FORUM=
 “「殿」「様」を書けばいい”
 杉本 浩二
 “普及よりも
 学生オリエンティアの定着を”
 和田美千代
 “パソコン通信とオリエンテーリング”
 原野 幸男
11-12
- パーマネントコースりぼ〜と
 大高 竜亮, 大町 宏志
 水野 博司, 富田 徹.....13-15
- “情報あれこれ” “編集部より”16

[今月の表紙]

10月18日開催の「学生ショートO馬籠大会」男子優勝の小長井信宏選手(京都大学), ゴール前の激走。

※今月の地図は休ませていただきます。



ストリーマー

体協加盟への道は?

猫のひたいほどの小さな庭に、柿の木を3本も植えてしまっ、日々は狭苦しく感じる。しかし今はほとんどの葉が落ち、わずかに残ったそれは色は、となりに寄り添う常緑の山茶花とのコントラストが、観賞にたえる。清少納言に書かせれば「いとおかし」か...。そして、あざやかに色づいた実がひとつ、葉の無い枝にぶら下がっている。どういうわけか、3本の木を見渡してもそれだけがポツンと残っている。これもおもしろい。何故かという、あとほみな鳥のエサになってしまっ、きれいさっぱり無くなっているのである。更に山茶花に目を移すと、これまたパープル色の花をひとつだけ付けている。最近、ちょっと変なことがあると気になるようになってきた。先月のフォトOで、お気づきだろうか。何と114°の方角が3つもあるのを。極めつけは、墓地での写真も114°だった。私のコンパスの狂いではなさそうだ。

他愛もないことに行を費やしてしまったようだ。落葉の季節をボンヤリ考えていたら、こうなってしまった。この秋、やはりテレビで見るスポーツ界は盛り上がっている。野球やゴルフはいつもながら、私にとって嬉しかったのは、プロ・サッカー。広島でのアジア・カップで遂に優勝してしまった。レベルアップは嬉しい。確かいつか書いたと思うが、私はこのスポーツを“King of Sports”と思っている。30年ほど前に中近東やアフリカを旅した時、小さな町々の小さな空き地でも、裸足でゴムまりを蹴って遊ぶ子供たち。その輪と一緒に入ると、嬉々として輝かせていた目は今も忘れない。30代の初め、少し生活が落ち着いた頃には、地域スポーツのプログラミングと推進を受け持つ「体育指導委員」となって、いくつかの種目のスポーツクラブづくりをお手伝いしたが、やはり「サッカー・クラブ」が、常に頭の中にある。小学生・中学生・高校生と成人の混合・時には母親にも楽しんで貰った。子供から大人までのチームづくりは、ほとんどが「少年O」や「ママさんO」といった、年齢や性別で区切ってしまっ日本のスポーツクラブとしては、結構ユニークであった。そして、そのうち小・中学生を「スポーツ少年団」として組織し、体協の補助を得たのである。その頃10チーム程であった横浜市少年サッカーチームも今は200を越えるのでは? Oも「地域体協」への加盟や「スポーツ少年団」の育成が第一である。

学生ショートO馬籠大会

取材 桐田幸宏

編集 岩出雅人

10月18日(日)、長野県木曾郡山口村馬籠において学生ショートO馬籠大会、いわゆるショートインカレの試行大会が開催された。競技テラインは、2年前にブレインカレが開催された『夜明け前』である。

正式なショートインカレは、来年度より開催される予定で、その実施規則は、この秋、日本学連の総会にて承認される見通しである。今回は、1つの準備段階として、日本学連技術委員会の発案により試行大会が開催された。正式な規則に則った大会ではないが、試行のもつその意義は、いろいろな意味で大きい。

『夜明け前』で行うことも技術委員会により決定された。このため、地元の名大OBを中心として献身的な準備・運営が行われてきた。実行委員長には、2年前の当地におけるインカレで個人戦チャンピオンとなった井上直丈氏が就任。かつての舞台上に恩返しができることだろう。

ショートタイプのオリエンテーリングをインカレに導入することの意義・経緯については、別稿にて掲載されるそうなので触れないこととしよう。ここでは、本番当日のイベントとしてのショートインカレを報告する。

競技は、午前の予選と、午後の決勝により構成される。予選には全国地区学連から選抜されてきた選手、男子180人、女子120人が参加した。それぞれ80人ずつ、男子3組、女子2組のコースに分けられ予選を行う。決勝出場資格は、各組の上位20名まで。最終的に男子80人、女子40人により決勝レースが行われる。決勝のスタートは予選通過者のうち、タイムの遅い者から、各組交互に並べて1分間隔でスタートさせられる。

運営の省力化もあって、いわゆるB-ファイナル、C-ファイナルといったものは行われず、予選に落ちた競技者はすべて観戦にまわった。

戦前のレース予想については、本命不在の混沌とした状態であったと言える。男子は本来の大本命、鹿島田浩二(東大)が、関東学連の選抜規定「前年度インカレのエリート完走者は、その運営を条件にセレクションレースを免除される」に従い運営側に回ったものの、当日高熱を出して動けず関東の代表になれなかったというアクシデントがあった。本人にも周りにもショックなことであっただろうが、いたしかたがない。

鹿島田を除くと、遠藤太郎(法政大)、森一申(東農大)等の名前を出す者もいたが、いずれにせよ本命不在であったの

が現実のようだ。

女子についても本命は不在であったと言われる。前年度インカレチャンピオンの小西陽子(筑波大)をはじめ、ユニバー代表選手の飯村亜紀子(東工大)、渡辺初実(日本女子大)などが有力との声もあったが、本命と言われるまでには至らなかった。さらにこの飯村や、インカレのメダル経験者岡田光代(横浜国大)、奥山陽子(相模女子大)、苗村恵子(相模女子大)等が欠場(セレクションの欠場も含む)している現実もあった。

ましてショートOである。結果は終わってみなければわからない。

男子予選

そうした中で行われた予選レース。上位通過者と、スタート前のコメントを紹介しよう。

HE1

- ①高島 和宏(東北大)
- ②吉村 年史(広島大)
- ③酒井 清隆(東大)
- ④山内 亮太(早大)
- ⑤伊藤 孝剛(神戸大)

HE2

- ①鈴木 卓弥(東大)
- ②鈴木 淳史(名工大)
- ③小長井信宏(京大)
- ④安斎 秀樹(東北大)
- ⑤室 智崇(大阪大)

HE3

- ①小林 哲(静岡大)
- ②入江 崇(東北大)
- ③桜井 太郎(東大)
- ④渡辺 純(東工大)
- ⑤森 一申(東農大)

O予選は、全然実は良くなかったんですよ。どれくらいかと言うと、会場の小学校の屋根を見て、現在地がやっとわかって、それからゴールに来たという。予選で優勝したんですけど、何しろレベルが高いクラスじゃなかったんで6位入賞を狙いたいと思います。(高島)

Oまわりの人が速いんでちょっといやだなあ～。つばらずに帰ってこれればそれでいいと思います。(吉村)
Oがんばります。(酒井)
Oベストをつくすだけです。あとは運が良ければ…。(鈴木卓)
Oいつも決勝ではずしてるから今日は丁寧にやりたいと思います。(鈴木淳)

○(取材は)ゴールしてからにして下さい。(小長井)

○とりあえず、表彰台に立ちたいです。せっかく出れたんで目立つところに…。

(小林)

○予選が結構、丁寧にやって良かったんで決勝もあせらず…。APOCも決勝でスピード出しすぎて失敗してるんで、今日はスピードのバランスを保っていきたいです。(入江)

○実力以上のものが出せればなんとかかなと思います。上位の差は、気合いと運じゃないでしょうか。実力は変わらないと思います。(桜井)



男子ファイナルの勝負所は①②。途中③と④の間に落ちる尾根へハマッていく選手が多かったが、④のあとつまく道に乗れずヤブハつこんで行った者も多かったよつだ。(小長井・吉村もその口か?)

ファイナルレースは、スタートを会場に持ってくるという演出がなされた。スタート地点はグラウンドを1段上がったオープンにあり、下からの声援を受ける。放送では、スタート前に選手一人一人の紹介がなされた。

最初に好成績でゴールしてきたのは、3番スタートでトップゴールの小山博史(東北大) 20' 53"。彼はこのあと、実に38分強トップをキープし続けることになる。まだ男子は半分以上スタートが残っている。

「僕は、予選を通過できただけで幸せです。21位で落ちるかと思いましたが(予選20位)。ジャパニースドリームを達成できてうれしいです。きっと予選に落ちた人でも僕以上の人はたくさんいると思うので、インカレではみなさん、がんばりましょう。(小山)」

中盤スタートの中では29番スタートの藤田晴康(静岡大)が好タイムを出し、その時点で2位につけた。終盤スタート組は依然、スタート前である。

「サポートしていただいたチャコさん(=村越久子氏)、および静大のみなさんに感謝したいと思います。内容は、午前がめちゃくちゃだったので、チャコさんの『気楽にやってきな!』という一言に励まされて、こんな結果が出せました。(藤田)」

ラストスタートの小林(静岡大)がスタートして、2分少々。ようやくトップの交代がおこる。42番スタートの武田光

男子ファイナル



男子2位入賞の武田選手

(早大)が20' 14"でゴール。いよいよ有力選手のゴールが始まるといった頃のことである。

「来た甲斐があった。1番でちょっとはまったんでダメかと思ってやってたんですけど、ラス前の有人で16分だったんで、いけるんじゃないかと最後は必死でがんばった。早稲田の意地を見せられてよかった。まだシーズンの始めなんでこれから成績を出していきたい。(武田)」

しばらくして、48番スタート森一申(東農大)がゴールするが上位3人には及ばず、その時点で4位につける。

「私はバカでした。インカレまでに頑張ります。(森)」

そして、いよいよ小長井信宏(53番ス

タート)がゴールする。19' 26"で初めて20分を切るタイムを出しトップに立った。

このあと、55番スタート吉村年史(広島大)が20' 33"を出し3位につけたが、他の終盤スタート選手(スタート前にコメントを聞いた人)達は、入賞圏内には届かず、吉村ゴール時点の上位6位がそのまま入賞を果たした。

「ラス前から脱出が失敗したんで痛かったですけど、全体的には走れたので満足いけるレースになりました。(吉村)」

「みんなががんばってくれたからですね。それ以外に考えられない。④→⑤で正置し忘れて、東の道路までCの岩石地帯をつきつた。それでも優勝できるなんて信じられへん。うむ。(小長井)」

女子予選

DE1

- ①酒井 佳子 (北海道大)
 ②佐藤 明子 (金沢大)
 ③石黒 佳子 (広島大)
 ④長岡 理恵 (千葉大)
 ⑤渡辺 弥生 (筑波大)

〇わざわざ、北海道から来たんで楽しみたいです。(酒井)

〇プレッシャー感じないで走った方が成績いいんで、今日も気楽に走ってこようと思います。(佐藤)

〇無事に帰ればいいな。早く家に帰りたい。予選が速かったから決勝はだめでしょう。前半で体力使い果たしました。(石黒)

〇きつとつぼるでしょう。いつもそうなんです。残ることは残るんだけど、いつもつぼるんです。APOCも帰ってきた時はボロボロ…。(長岡)

DE2

- ①吉川 素子 (京大)
 ②金並 由香 (早大)
 ③奥野 洋子 (椋山女学大)
 ④渡辺 寿理 (津田塾大)
 ⑤石川恵美子 (東北大)

〇私実力ないです。決勝に出れてうれしいです。来た甲斐があった。(渡辺弥)

〇ラストスタートは縁起がよい。去年のインカレセレクションも、京大杯もラストスタートで優勝した。今日もラストだったの、ちなみに。だからたぶん、良いレースができるに違いない。足から血がふいていたら、救急車に乗せて下さい(先週のレースでケガ。4針めつていて、抜糸前)。(吉川)

〇メダルがもらえればラッキーかな。(吉川)

男子同様、上位予選通過者と、そのコメントを。

〇久しぶりに天気もよくて気持ちいいレースなんで、楽しんできたいです。久々に、オリエンテーリングが楽しくって、本当に楽しみです。(金並)

〇予選は人についていった。計センの稲垣さんが間違いだと思って3回計算したと言われました。だからたぶん、これは何かの間違いでしょう。(奥野)

〇予選はメンツを見たら、走らないと通過しないとだったので、がんばって走ったんですけど、ラスト前でツボって、ラスト前からゴールまでの道走りが全然体力残ってなくてダラダラ走りになってしまった。だから本戦は体力残ってません。(渡辺寿)

〇なんか、すごく緊張しています。予選がやっぱり緊張してつまらないミスしたんで、決勝は慎重に丁寧にやりたいと思います。(石川)

女子ファイナルは、中盤スタートの中から、植田佳子(広島大)が19'09"で抜け出して、トップに立つ。終盤スタートが始まった頃だ。彼女はこのあと、チャンプ渡辺弥生がゴールするまでのおよそ17分間、トップを守った。

「ラッキーだった。走力でずかぬ。(植田)」

女子すべてのスタートが終わって直後、前年度インカレチャンプの小西陽子(筑波大)がゴールする。19'45"で、植田には及ばず、この時点で2位。カセが治らなくて、体調が整えられなかったという彼女は、「ちょっと、つぼっちゃいました。始めにつぼって、あーもうだめーとか思ったけど、あきらめないでよかったです。ほんと、調子悪かったんで、入賞できてうれしいです。」と語ってくれた。

その後しばらく上位に変動はなし。

終盤スタート選手のゴールが近づくと、31番スタートの渡辺弥生(筑波大)が初めて18分台に入る18'09"を出してゴール。植田に代わってトップに立つ。18分台は、

女子ファイナル



筑波大女子、今年も有力か?左から小西陽子(5位)・角枝実(9位)・渡辺弥生(1位)

それ以降も1人も出ず、彼女はそのまゝ優勝を手にした。

「決勝のレースは、大きなミスはなかったけど、直進をちょっとハズレちゃって、そこでバックができて、スピードが落ちないでいけたのでラッキーだった。優勝できてうれしいです。今年は団体戦走りたいなあ〜。(渡辺弥)」

さて、入賞争いは、渡辺のあと石川恵美子(東北大)が19'58"を出して、その時点で4位。続いて佐藤明子(金沢大)が19'04"の好タイムで2位に入ってきた。

「やっぱりつぼちやいました。でも入賞できたのはラッキーだな。(石川)」

「気楽に走れてよかったです。ラストでバックになって、ちょっとみんなでウロウロしたんですけど、誰かがバツと見つけて、その後の走りでみんなを抜きました。(佐藤)」

佐藤のゴールのあとは、終盤スタート

の選手達のゴールが続いたものの、ほとんど入賞圏内には及ばず。最後にラストスタートの吉川素子(京大)が19'08"を出して3位に入り込んだ。

「道走りでしんどかったです。ラスト前でちょっとロスした。2位と4秒差だったらしいから、3人バックだったのにラストから離されて悔しかったです。(吉川)」

京都大・広島大・東北大は、男女共入賞者を出す活躍を見せた。また、筑波大女子は2人の入賞者を出し、今年もその強さが健在であることを示す結果となった。

総評より

表彰式のあとの閉会式、テクニカルアドバイザー・利光良平氏(今大会の発起人とも言われる)、日本学連新会長・村

越真氏、実行委員長・井上直丈氏より、あいさつがあった。

村越氏は、「入賞者の顔ぶれを見ると、関東以外が多い。学連としては、うれしいことだ。ショートということで特殊な大会ではあったが、いろんな人が顔を見せたことは一つの成果だったと思う。」とコメントした。

最後に、本大会を主体的に運営された若いお二人の言葉で報告を締めたいと思う。

「ショートインカレも、やっと今、夜明け前に来たと思います。これから一つ一つ重ねていくごとに、新しいショートインカレが刻まれていくのではないのでしょうか。(井上)」

「これからも毎年あるので、みなさんも毎日トレーニングに臨んで下さい。よりレベルの高いショートインカレが行われるようがんばって下さい。(利光)」

最終成績

★DEF 2.0Km

①渡辺 弥生(筑波大4)	18' 09"
②佐藤 明子(金沢大4)	19' 04"
③吉川 素子(京大3)	19' 08"
④植田 佳子(広島大2)	19' 09"
⑤小西 陽子(筑波大4)	19' 45"
⑥石川恵美子(東北大3)	19' 58"
7渡辺 初実(日本女子大4)	20' 05"
8金並 由香(早大3)	20' 50"
9角 枝実(筑波大2)	21' 11"
10石黒 佳子(広島大4)	21' 15"



★HEF 2.5Km

①小長井信宏(京大4)	19' 26"
②武田 光(早大3)	20' 14"
③吉村 年史(広島大2)	20' 33"
④小山 博史(東北大4)	20' 53"
⑤藤田 晴康(静大4)	21' 36"
⑥森 一甲(東農大4)	21' 37"
7桜井 太郎(東大3)	22' 03"
8関口 道広(東農大4)	23' 08"
9小林 哲(静大2)	24' 13"
10入江 崇(東北大2)	24' 45"

競技の活性化の観点から見た ショート・インカレの意義

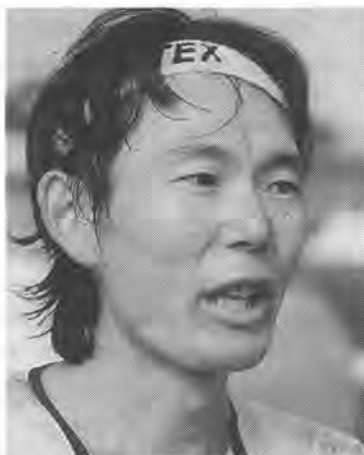
日本学生オリエンテーリング連盟
技術委員会顧問 村越 真

ショート・タイプのオリエンテーリングは、1990年のワールドカップから正式に採用された種目である。トップタイムが25分程度の予選を午前中に行ない、その上位が午後の決勝に進出することができる。決勝のスタート順は、午前中の順位で決まり、成績の良かった者は、決勝のスタートは遅くなる。但し、決勝の成績は午後のタイムだけで決定される。

このショートタイプの特徴は、これまでのオリエンテーリングに無かった「観客」の存在を明確に意識している点である。決勝では、成績の良い可能性のある者ほど遅いスタートになるので、速報結果は常に入れ替わる。しかも優勝タイムが短いので、各競技者のタイムも肉薄したものになる。スリリングで、興味深いレース展開を見ることができる。ショートがこうした楽しみを提供してくれることは、5月に開催されたAPOCでもすでに実証されている。見る楽しさは、見られる楽しさも増幅してくれる。見られることによって競技は活気づくだろう。

ショートタイプのもう一つの特徴は、優勝タイムの短さ、そして午前と午後に予選、決勝があるという点である。競技者は、これまでのレース（世界的にはクラシカルと呼ばれている）とは違った能力を要求される。ミスを最小限に抑える集中力はクラシカル以上に要求されるだろう。予選と決勝への力の配分も問題になってくる。また決勝での有力選手のスタート順も、心理的に大きな影響を与えるはずである。

必然的に、クラシカルには強くても、ショートには弱い、あるいは逆の特性を持ったランナーが生まれてくることもあり得よう。競技的な観点から見た時のショートの存在意義もこのあたりにある。長い距離では体力的に成功しなくても、短い距離でなら集中した非常に密度の高いオリエンテーリングをすることができ



る、そうしたランナーがこれまでもいたはずである。そうしたスタイルは、クラシカルにとっても望ましいものかもしれない。ショート・タイプは、こうしたタイプのランナーの長所を顕在化させることになるだろう。

今回のショート・インカレ試行大会の上位者の顔ぶれを見てみると、ショート・タイプは、これまでのレースとは異なった能力を要求していたと言えるのである。これは個人的な感じなのだが、クラシカルよりも、むしろリレー向きの選手たちが活躍したという感じがする。

上位の選手たちの出身校や出身学連が、全国にわたっていることも、学連にとっては嬉しいことである。様々な地域の選手たちが、これまでのインカレとは違う場で、その潜在的な力を顕現することに成功すれば、その自信は、他の分野にも波及することだろう。

もちろん、試行という大会の性格上、そしてショートという、いまだにコンセプトとそのための方法論の曖昧な競技の性格上、問題も残されている。果たしてどんなコースがふさわしいのか？ コースの性格は、競技の内容に対して、クラ

シカル以上に規定力を持つことになるだろう。また学生のレベルが、見るという楽しみを提供するほど洗練されたものであることが、常に保証されるかといった課題も残されている。また、見せるためのアレンジが、オリエンテーリング競技の本質を侵すものであってもならないだろう。

ショート・タイプを一つの種目として確立させるには、このあたりのことを常に頭におきながら、こししばらく、試行を重ねて行くことが必要だろう。



『東京OLクラブ20年史』紹介

東京OLクラブが、創立20年を記念して、20年史を発刊しました。東京OLクラブといえは、誰もが知る地域OLクラブの草分けであり、その歴史はそのままOL界の歴史と言っても過言ではないでしょう。本書は、その創成期を中心とした随想、クラブ事業年譜、作成マップなどについて書かれ、その記録としての価値には計り知れないものがあります。

基本的にクラブ員向けに作ってありますが、内情を知らない第三者が読んでもOL界の歴史、とりわけその初期の頃の様子が目に浮かんでくるようです。また、巻末にはクラブ作成マップ22枚（カラー6枚）が解説とともに付いていて、地図が好きな人にはよだれものでしょう。

一般への配布部数は150程度。価格は製作費の半分以下の1000円（+送料300円）ということでこれは早い者勝ち！

一申し込み先

〒177

練馬区関町北三丁目38-3

斎藤方 東京OLクラブ宛

TEL (03) 3929-1715

以上 文責▲

第19回 岡崎市O.L大会

●1992年9月20日
●愛知県岡崎市

最近、地元高校生の参加が目立つ、岡崎市O.L大会。2月の岡崎東公園大会とペアで、毎年この9月に開催されている。名前は2月の東公園大会と異なるが、競技エリアは同じで、MAP「岡崎東公園」を使っている。

先回の東公園大会の時も書いたが、現在では貴重なハガキ申込みのやり方を守っており、また当日参加も事前申込み者と同等に扱っていただけるという有り難い存在である。主催者側としては、地図の心配や、第2受付の手間やらで大変なリスクを背負っての運営でご苦労さまでした。

例年どおり、野外ステージを更衣室・荷物置き場に利用して、広場に受付・ゴールなどを配置したスタイルは、常連なお馴染み。今回は特にスタートまで400mの至近距離に置かれた。

私はトレーニングのため、H21Aにエントリー。距離6.6km、15コントロールというコースには、精神的疲れから中間以降ミスが出るのではないかと心配がでた。

(もともとH21Aにエントリーしたのは、集中力の持続性を高めるためだったのだが、すっかりそんなことは忘れていた) 今回のコースは例年と逆回りで、ミスのし易い部分が前半に持ってきてあり、慎重さを要した。しかし、CPからしっかり方向を定めて進んだものの隣の沢へ入ってしまうなど、何度か参加している者がおかすべきでないミスで最初の⑤Pまでで数分のロスをしてしまった。

中盤では少し位置がずれているのではと思われるコントロールがあったりして、結果に運・不運が出たようです。⑩コントロールに向かって走っていた時、音もなく稲葉英雄氏が現れ抜いていったので、必死で追いかけた。彼の軽快に走る後ろ姿を見て、あの走りなら頭の方も十分余裕があり、ミスも出ない!と思った。

3月につくば市に移った、三河O.L.Cの河村さんも参加されており、見事H35Aで優勝を飾った。彼のいうには、関東の方はあまり大会に恵まれていないようです。関東の皆さん、もっと大会のPRをしてください。

全クラスではなく申し訳ありませんが、私の知っている勝者は次のとおり。

H21A	稲葉 英雄	57:53
H35A	河村 健二	53:14
H45A	加藤 登	64:35

最後に、初心者には1:7,500のMAPを使っており、分かり易いと評判であったようだが、実物を見ると、1:15,000の版下を現尺で印刷したものであり、数回にわたる修正の汚れが目立ち、あまりお勧めではないと思った。

92年度第3回 東海学連定例戦

●1992年10月10日
●三重県名賀郡青山町

青山高原と言えば、上津小学校といつもペアのこの Terrain。関東ではこの日、東京O.L.CのペアO.L大会が開かれていた。10月10日は体育の日。明日の日曜日と合わせで連休となる。

東海学連の定期戦は6月28日の岡崎市舞木町周辺で行われた第2回に続いて3回目。関西学連定例戦とともに安価で良い大会を提供してくれている。事前エントリーもHA 80名、HB 48名、DA 36名、DB 24名と計188名の盛況。当日参加も含めると200名は越えたのではと推定される。Terrainの良さも大いにPRに役立ったと考えられる。主管は三重大学O.L.C。

東京オリンピックの開会式の日が、この10月10日。昭和39年に開かれたこのオリンピックを知らない世代が、既に40%に達するという。東京オリンピック以前は晴天確率が50%だったが、体育の日に制定以降は90%の確率ということが今日の新聞に載っていたが、以前は晴天確率が高いから開会式に当たると聞いていた。とにかく今日は良い天気だった。

HAは6,600m、9コントロール、全体に道を使うことの多いコース。しかしこの周辺の理解しにくい地形は大きなミスにつながる恐れがあり、その点で慎重な地図読みが必要とされる。また、長い登り道に対してはパワーが必要だし、下り道においては悪路走破性というか、足首の強さみたいなものがないと勝てない。

コースは①-②と④-⑤にロングレグを配置した、東西に長く、ルートによっては2つのロングレグは共通の小道を通る部分が生ずるようなコースが組まれた。上位は小長井、中村、川前といった京大勢が占めた。例えこのマップの調査者、作者者とは言え、それだけでは41分21秒というタイムは得られないと思う。なお、DAは加納尚子さんが優勝した。因みに私のタイムは62分48秒で30位近く。目標を20位にしていたが、60分を切らないと無理だった。

三河O.L.C 小野 盛光



第12回 山口大学工学部大会

- 1992年10月11日
- 山口県小野田市江汐公園

《田寺》今月から始まった「中国・九州・四国ブロック」の「ランキング対象」第2戦としての大会。幸い好天。
《戸斤》過去、この地で複数回、大会が開かれたようです。最近では、4年前に、「山大工学部0」が開かれたという。今回の0マップは、この秋にリメイクされたばかりの「江汐公園 PART III」。

この地は、人造湖を中心とした「広域自然公園」。人造湖は、290年前「毛利」の藩政下、瀬戸内海岸を干拓して、400haの新田開拓の際、新しい灌漑用水としてこの地の山峡に、100mの堤防を築き、周辺8kmの地を造成。近年は、小野田市北の観光名所となり、年間20万人の利用者が訪れるという。テラインは、複雑な丘が入り組んで、微地形も多く、テクニカルなオリエンが要求された。

《人》スタッフ=29人、競技者=100人。

第5回 全国スポ・レク祭 オリエンテーリング大会

- 1992年10月12日
- 島根県松江市松江ろう学校

《田寺》前日（土曜）から始まった全国スポレク祭（各都道府県代表の団体種目&マスターズ陸上も、この日曜日は休戦。代わって、この日は総開会式（浜山陸上競技場）+ ウェーク（益田市）・シマツク（安来市）・初ワテリング（松江市）が開催。幸い、好天に恵まりました。

《戸斤》オリエンテーリングは、県都「松江」の西郊。大小様々な溜め池と丘（主に落葉樹林）を特徴とするテライン。今回は、協賛大会となったため（予算交付=0）、予定の0マップが作成できず、4年前に作成された「4色刷」既成マップで間に合わせ。昨年の第4回全国スポレク（熊本）オリエンが、初めて1,000人予定の予算交付を受けたため、通行可能度入りの「5色刷」であったのに比べ、今回の後退は遺憾なこと。その主因は、文部省の生涯スポーツ課が、オリエンテーリング+サイクリングは「カット可」と指導しているため（次年度以降の全国スポレク祭も、同様の指導をしているようです。JOA側の対処が必要）。

《人》スタッフ=30人。競技者=90人。

埼玉・小川 オリエンテーリング大会

- 1992年10月25日
- 埼玉県小川町

《田寺》APOC以来~5か月余、久々の公認大会。前夜までの雨模様も去り、絶好の秋日和に恵まれました。

《戸斤》この小川町では、16年半前「第2回全日本」が開かれた。その際は、「小川町駅」の北方のテラインで、駅の裏手がゴールであった。当時の、コース設定責任者は、卜部 茂（現・埼玉県OL協会副会長）・ゴール責任者は、田口 肇（『O-JAPAN』編集長）の各氏らであった。

今回のテラインは一転して駅の南西（集合場所まで徒歩20分。更にスタート地点まで4km）。急峻でヤブいというので、チャンプの村越さんはオリエン普及のほかのイベントに向かわれ、今回の大会にはエントリーされなかった。しかし、斜度も通行可能度も、主催者が言われるほど悪くはなかったようだ。

《人》スタッフ100人、競技者=事前申込み数1,300+当日申込み160人位。

島根OC 財間 定義

第2回 岐阜県スポ・レク祭 オリエンテーリング大会

- 1992年9月23日
- 岐阜市長良福光

晴天のもと、岐阜メモリアルセンターにて開催され、参加者数80名はスコア0Lを楽しみました。私は、去年に引き続き2度目の参加。しかし、今回は子供（小学2年生）を連れての「家族の部」に出場。日頃のジョギングの成果か、子供も私について良く走り、全ポストをとり無事ゴール。市街地でも岐阜中部未来博会場跡の岐阜メモリアルセンター内ということでグレンデは広い。また、野球場、陸上競技場などいろいろな特徴物も豊富である。そして、センター内は車が入らず市街地でありながら安全性も確保されています。

参加賞をもらい帰宅すると、子供が「オリエンテーリング、おもしろかったネ。今度、また参加しよう！」。OL虫が1匹生まれたようです。

岐阜県OL協会 水野 博司

□

「殿」「様」を 書けばいい

●ウェル・ビイング 杉本 浩二

10月号の「行」「様」あなたはどちら？は、直接オリエンテーリングのゲームに関係ないことながら、主催した場合、返送する封筒のあて名の終りをどうすべきか、迷うところです。

アメリカ人はだいたい、相手の名前の前に Mr. Mrs. Miss. (最近は女性全てに対して Ms.) を付けているようですが、ヨーロッパ (特に北欧) では、何も書きません。(敬称なし)

それで思い出すのは、よくスウェーデンの友から来る小包などでは、自分の(差出人)名前に×がしてあることです。彼らはあて名をタイプライターで打つことが多いので、きっと、どちらが「差出人」で、どちらが「あて名」か混乱して配達される経験をもっているのではないのでしょうか。

日本でも自分の名前の後に、「出」と付けて差出人であることを明示する習慣があります。結局、行・殿・様を付けることは郵便局の配達関係者への心くばりであると思えばいいのではないのでしょうか。

私はいつも何のためらいもなく、自分のあて名の後に「殿」を付けることにしています。誰もこのことで迷惑することではないのですから...。(しかし、びっくりするのは、この「殿」を消して、「様」とゴム印を押し直して返送してくれる場合があるのです。余りにも機械的な考えをもった敬称扱いとは思いませんか。)

リターン・アドレスも詳しくはっきりと。

ローマ字(英文)で住所を書くとき



東京都中央区銀座一丁目2番1号

山田太郎

Taro Yamada
2-3, Ogikubo 1 chome
Suginami-ku, TOKYO
167 JAPAN

.....1行目 氏名
.....2行目 郵便番号、住所番号;
.....3行目 市町村名、都道府県名
.....4行目 郵便番号、国名



普及よりも 学生オリエンティア の定着を

●広島大OG 和田美千代

OLの普及とは、おそらく「OLを知らない人にOLをやってもらおう」ことを指していると思いますが、その対象は「新入生」と「一般の人々」に大別されます。10月号12ページの尾川君の反省内容は、主に「一般の人々」に対するものと思われますが、事前に、本当に普及を望んでいたのでしょうか。失敗の最大の原因は、「それほど強く望んでいなかったこと」のように思われますが、それなら「一般の人々」への普及に力を注ぐ必要はないと思います。

そして、そんな事で悩むエネルギーがあるのなら、ぜひ、別の事に力を注いでほしいと思います。それは、「一度はオリエンティアになった女子学生が、卒業してもOLを続けたいなる雰囲気作り」です。もちろん、やめていく男子もいますが、女子の方は定着率がゼロに近い状況なのですから。

以前、ある人にこの事について相談すると、「男が悪い」という答が返ってきました。「これこれの事に引かれて、卒業後もOLを続けている」という女性(エリート以外の方)を中心に、幅広いアドバイスをお願いします。

✓なお、外国郵便(または横形封筒)を使った場合、切手の位置が間違っているのがしばしばです。正しくは別図になりますが、右端を持って縦位置にしてみれば自と判明するものです。

パソコン通信と オリエンテーリング

●原野 幸男

1. はじめに

PC-VANという言葉は、最近マスコミやO-JAPANにまでも、登場するようになりました。会員数が46万人に達したパソコン通信の商業ネット名です。

PC-VANの中には、同じ目的や趣味を持った人々が集まり、交流の場としてメッセージ(PC-VANの会員から書き込まれた文)のやり取りを行なっているグループがあります。このグループをSIGと言います。130種類ものSIGがありますが、その中に「オリエンテーリング」があります。このオリエンテーリングのSIGをSOL(SIGオリエンテーリングの略)と呼んでいます。

SOLは、オリエンテーリング愛好者、ジョギング愛好者が老若男女を問わず全国から参加しています。こんな愛好者たちがパソコン通信を通じて交流を深め、情報交換をするのが目的です。オリエンテーリング関係の情報や新聞やテレビのマスコミに登場することが少なく、SOLが情報伝達のネットワークとしてオリエンティアの間で役立っていると喜ばれています。

パソコン通信の世界は、専門用語を数多く使用しています。初めての方がメッセージを読むと、奇異に感じるかも知れません。これらの専門用語の解説も交えたつもりですが、読みにくい点はお勘弁願いたいと思います。それでは、皆さんをSOLの世界へご案内しましょう。

2. SOLの開設と参加メンバー

PC-VANが誕生して間もない、昭和63年2月にSOLは、開設されました。開設者は、VAN事務局との連絡や、SOL運営の世話役でSIGOPと呼ばれているSOL主催者です。初代のSIGOPは丸山浩史さんで、現在は私が行っており3代目となります。

開設当時は数名のメンバーだったのですが、現在は延べ約90名が参加しております。常時メッセージを書き込んでい

パノラマポイントコース

りぼ〜と



□1992年8月15日(土)
長野県 No. 3 ~大高 92-8~
「上伊弉」
[距離] 10km
[ポスト数] 10本

JR飯田線「宮木」駅下車。踏切を渡ってすぐの「老人福祉センター」がスタート地点で、古い掲示板があるが中は空。マップとマスターは駅から北西へ10分の「辰野町民会館」内の教育委員会にある。マップは最近倉庫の中にあるのが見つかったようで、在庫は豊富にある。ただこのマップは1:25,000で余りにも古く、現状と合っている所のほうが少ないという程のもの。この日私は、木佐木さんより頂いた辰野町と箕輪町の1:10,000行政図を持参し、ほとんどそれを頼りに踏破した。この行政図がなかったら、①②③⑤⑧は相当苦労していたものと思われる。マップがそんな状態だからコースもと思いきや、つい先日コース整備をしたようで、ポストは綺麗にペンキが塗られピカピカだった。その際、どういふ訳か⑨の記号が変更されている。②は「荒神山」の裏山。③は「桜の木公園」の北にある墓地の脇。⑤は地図と現状が全く違う。④を出て最初の分岐を間違わないこと。また、手前の小さな山を越える辺りは完全に小道が消え入ってしまう。コンパスを使って何とか切り抜けるとまた小道が復活する。⑧は「日輪寺」の池の奥。⑩はゲートボール場の西の角にあるが道からは全く見えない。ゴールは「伊那松島」駅。大変な暑さのなか踏破したので4時間近くかかったが、1:25,000の地図だけで回るのならそれ以上の覚悟が必要であろう。コースを整備してくれた熱意には感謝。

(辰野町民会館 ☎0266-41-1681)

□1992年8月22日(土)
長野県 No. 12 ~大高 92-9~
「高社高原」
[距離] 10km
[ポスト数] 10本 O-MAP

JR飯山線「飯山」駅または長野電鉄「木島」駅下車。一覧表によるとバスもあるようだが、タクシーが便利とのこと。「ビレッジ牧の入」にコース図入りのマップがある。このコースは既に閉鎖されて久しいが、マップはまだあり、ポストもそのままということだったので回ってみることにした。もちろん最近は全く手入れなどされていないから荒れてはいたが、それでもポストは7本を確認した。先ず①が不明。ヘアピンカーブから少し入った岩の横にある筈だが全く見当たらず。倒れて藪の中に埋まっているとすれば、この夏の時期に見つけるのは無理。②③は3面真っ白で、特に③は全く記号が分からない。④は送電線の鉄塔の下にある筈が見当たらない。⑤の辺りは大分様相が違い、リフトに沿った道も消滅しているのでよく分からずカットした。⑥へはスキーのゲレンデを直登。⑦も不明。⑦への最短コースは全く分からなかった。小川沿いに西からアタックしたら案に見つかった。このポストはしっかりしている。⑧へ下る道は荒れていた。一旦戻って舗装道路を歩いた。このポストも割としっかり立っている。⑨は薄気味悪い建物の南側にあるが、この時は夏草に隠れてなかなか見つけられなかった。ポストは3面ほとんど真っ白であった。鉄塔の下にある⑩も真っ白で記号の判読困難。4時間2分かかってゴールした。この日はこの後、新潟県の「池の平」コースに行く予定をしていたが、やはり見つからなかったポストが気になるので、未練のない④を除いた3つのポストを徹底的に探すことにした。結局①⑥はなかったが、⑤は見つ

かった。④から舗装道路をしばらく歩き、林から抜け出たところで左折する。この小道はかなり荒れており、分岐づらいので見落とさないように。この小道の途中左手の小さな池の横に⑤がある。ポストはかなり注意して見ていけば見えるかもしれないが、もし突き当たってしまったら行き過ぎと思うこと。特に危険箇所はなかったので、整備さえすれば十分使えるコースである。

(ビレッジ牧の入 ☎02698-2-3151)

リポーター：
〒344 埼玉県春日部市武里団地5-23-503
大高 竜亮

□1992年9月23日(祝)
千葉県 全国No. 333
~大町 92-2~
「千倉」
[距離] 9km
[ポスト数] 10本 O-MAP

千倉ロードレース・ハーフ出場後、回る。「千倉」駅前観光案内所で地図を購入。一枚50円。マスターに出ているポストは9本。最初は順に回る。①は小道の曲がり。②は小径の途中。但し、直前にコンクリートの障害物ができており、その脇を通らなければならない。③は神社の鳥居の近く。そこに直通する小径が見つからず遠回りして行く。④は石碑のそば。⑤は栗樹園の南の角。⑤の直前から山中の沢道を登る。倒木や藪で通りづらい部分もあるが、道は外れずに⑥へ。⑥はポストの頭がもげて下にある。⑥は小径の交点。⑥から尾根道を走る。一度現在地を見失い、小径の分岐で乗り換えに失敗。道なき道を進むが、その分岐に戻って乗り換えし直す。尾根道を下るのは危ないのに歩測しなかったのが原因。⑦は小径の分岐。後は尾根と沢を下るのみ。途中右手に大小の池があり、落ちる恐れがあるので注意。⑧も小径の交点。下りは上りの時ほど倒木や藪には覆われていない。⑨から少し行くと急に市街地に出る。



一休みして荷物をロッカーからコンビニに預け変え、逆に回る。2, 3か所を除きほぼ同じ経路をたどる。道路の分岐でマスターには出ていないポスト⑩が見つかる。順に回った時も同じ道路を通ったのが見落としていた。⑨の後の小径は途中から藪に覆われたりして道らしい道がないが、何とか通り抜ける。⑧から山の中に入った途端、小径に潜んでいた数羽の鳥(種類はわからないが、鳥ではない)が羽ばたくのに驚かされる。⑦の後、また尾根道で少し現在地を見失う。③からすぐ道路に戻り、不明の小径を確かめなかったのを少し後悔。②の東の耕作地に野火を見る。逆回りでは10分短縮。ポストの状態は、②③⑨⑩のみ新しく、①は頭が低い。

リポーター:

〒190 東京都立川市砂川町 2-16-26

亀の池荘 1FC号

大町 宏志

□1992年9月27日(日)

岐阜県 No. 6 ~水 92-1~

「丹波馬車寄山」

[距離] 10 km

[ポスト数] 8本

○地図取扱/問合せ先:

城山公園管理事務所=高山市城山 1-1

☎0577-32-3333

※ 高山市教育委員会 ☎0577-32-4118

○公共交通機関: JR高山線「高山」駅下車, 約1 km。

平成4年9月27日、岐阜県OL協会の兼松、生田、中村、山田、原田の各氏、そして私の計6名で調査。PCコースの案内板は城山公園管理事務所前に、マスターマップおよびマップは管理事務所構壁に設置してある箱の中にあり。マップは無料。ただし、ゼロックス印刷の黒一色です。①および②ポストは、城山公園内で小道が結構あり、地図をよく読まないと迷う恐れがあります。また、③手前の下り坂は滑りやすく、そして④から山を下り川を渡る直前の小道には小さな側

溝が草に隠れているので注意が必要です。その他は順調に回ることができ、ポストも新しく設置されており、所要時間2時間の歩き易いコースでした。

④および⑤ポストの中間付近の野菜無人販売所にてトマトを購入し、みんなでかぶりつく。乾いたノドに、これが非常に美味しかったです。OL大会では味わえないPCコースの魅力かも。

ゴール後は、古い町並みなど高山市内観光をし、帰途の電車で飛び乗りました。なお、コースに出る場合は必ず事前に「箱の中のマップの有無」を電話などで確認してください。

〒509-01

岐阜県各務原市鶴沼朝日町 5-248

水野 博司



□1992年8月27日(木)

山梨県 No. 30 ~富 92-8~

「清里・美し森」

[距離] 10 km

[ポスト数] 10本 0-MAP

JR小海線「清里」駅下車。駅前広場左側にマスターがあり判読可能。マップはその前の大きな土産物店「ホテル・カールム」(☎0551-48-3511 8月を除き水曜休み)のレジにある。①へ入る道と車道の間マップに無い立派な小道がある。②へ入る小道の出会い頭にXのついたポストがあってギョッとしたが、新しいポストが奥にあった。③の手前が「清泉寮」で観光客でいっぱいである。⑤も新旧2本のポストが立っている。⑥への小径は夏草をかき分けて行く。道なりに行き右折したがポストは見当たらず、その手前に道なき道があった。⑦は町営「たかね荘」の手前。⑧は「美し森」(標高1542m)山頂。⑨と⑩は自転車道を下ると時間をロスするので、車道から見当をつけて右へ入った。マップが1万分の1なのでポストを歩き過ぎるといふ失敗を重ねた。

(甲斐駒OLC ☎0551-32-3050)

□1992年8月31日(月)

長野県 No.11 ~富 92-9~

「富士見高原」

[距離] 10 km

[ポスト数] 10本

JR中央線「信濃境」駅下車。駅前の「飯田屋」にマップとマスターがある。駅前のマスターはポストマークが消えていた。1981年5月に一度踏破しているので、今回は逆回りした。⑩への小径は夏草をかき分けかき分け登った。⑦へ下る最短の小径も夏草にはばまれて引き返し、その東にある小径を何とか辿った。⑦から⑥へも直行できず、いったん国道へ下りてから、748.35の所の小径へ入った。④は「十五社」と「三光寺」の間的小径にあった。③から②への道も夏草が残っており、車が通る道路を逆回りした。「井戸尻考古館」の隣には「歴史民俗資料館」が新設されていた。なお、⑤は①の次に回って駅へ戻った。1981年にはのんびり歩いて3:40 かかったが、今度は割合急いだのに5:10 もかかってしまった。高原気分だけは十分に満喫できる。

(富士見町公民館 ☎0266-62-2400)

□1992年9月27日(日)

福岡県 No. 28 ~富 92-10~

「大里予坊」

[距離] 10 km

[ポスト数] 10本 0-MAP

福岡空港から直接タクシーで行ったため、15分 2,330円位かかった。JR「大野城」または西鉄「白木原」(1584)駅からタクシーでもよいと思われる。「大野城総合公園」(2547)の「総合体育館」内売店にマップがある。PC用のほかに「まどかパーク」(1万分の1)もあったので参考に購入した。マスターは入口近くにあり判読できる。コースは「県民の森」にあるため、道はよく、人通りも絶えることがない。⑧と⑨の間にこのコースの410m 最高峰と「毘沙門

天)を通る。婦人もタクシーを呼ぶしかないであろう。

(大野城市教委 ㊚092-503-0021)

□1992年9月28日(月)

熊本県 No. 3 ~富 92-11~

「天草松島」

[距離] 8 km

[ポスト数] 10本

熊本から産交バスで1時間35分かかって「松島」駅着。営業所にマップ、後ろの駐車場にマスターがあり判読可能。逆回りをした。⑩の池は半分埋立て中で、ポストは池の淵に倒れていた。⑧と⑦は何度も探したが不明だった。⑥は「青年の家」へ入る手前の小径を下る。④は「千巖山公園」で、眺望に恵まれている。③も倒れていた。②と①の間の岡を掘削中だったが、コンバスタークで向こう側の小径を見つけた。古い 25,000 分の1のマップなので現状とかなり異なっている。

(松島町教委 ㊚0969-56-1111)

□1992年9月30日(水)

熊本県 No. 7 ~富 92-12~

「金山峠山」

[距離] 8 km

[ポスト数] 10本 O-MAP

熊本交通センターから産交バス「河内温泉」「玉名」方面行きで24分、「峠の茶屋」下車。「吉本酒店」(㊚096-277-2155)にマップ、左側にマスターがあって判読可能。このコースにはPCのほかに「少年自然の家」が立てた似たようなポストがある。①から③の手前までは、「金峰山」へ登る多くの人々に会った。⑦を過ぎて「少年自然の家」の北へ入る小径が夏草に覆われて探し回り、左手の果樹園を目標に何とか見つけた。⑧は倒木の間にあって一度見逃した。ここから⑩まではくもの巣と倒木との壮絶な戦いが続いた。1991年3月に窪田宏明会員が1時間35分で走破されたが、私は4時間

もかかり、へとへとだった。

(熊本市観光課 ㊚096-328-2111)

リポーター:

〒145 東京都大田区南雪谷 2-8-8

富田 徹

㊚03-3729-1222

□1992年9月12日(土)

埼玉県 ~窪 92-6~

「カロシ頁A・カロシ頁B」

[ポスト数] Aコース 9本

Bコース 6本

●マップ取扱所:加須青年の家・事務室
1部 200円 ㊚0480-65-0660

●マスターマップ:青年の家人口左手に掲示板と2枚のマスター、A・Bがあり、ポスト位置記号は明瞭。

●マップ:調査期間=1985年8~9月
縮尺=1:20,000のO-MAP

「加須花咲150」となっている。

●ポスト:標準サイズで管理は良好。ポストはAコース9本、Bコース6本でそのうち3本がA・B共通。ポストB-④は隣接するPC「鷲の宮A」のポスト④と共通。

●コース:東武伊勢崎線「花咲」駅周辺の、主として田圃地帯を回る。全くといってよいほど平坦で、田圃気分が味わえる易しいコース。

「花咲」駅は橋上駅となっており、改札口を出て右(南西側)に行き、階段を降りる。南南西に延びる太い道路の右側を進み、約5分で「青年の家」の入り口に着く。入って左手にマスターが2枚、A・B用が掲示されている。ポストは全部で12本、これを一筆書きで回った。逆回りの方が駅と青年の家の間が重複しない。順序は次のとおり。所要約4時間。

A9(B6), A8(B5), B4, A7, A6(B3), A5, B2, A4, A3, A2, A1, B1

A1は公園, A2は弘法大師新四国八十八か所霊場・薬王山勝蔵院, A3は観音寺, A4は愛宕神社, A5は小さな神社, B1は花咲北公園, B2は小公園で水道あり, B4は

鷲宮神社、にある。

はるか彼方で黄金の波が続き、早くも刈取りの始まっているところもあった。農作業が機械化され、藁葺き屋根がなくなり、高速道路が走ってはいるが、これらを視野から外せば、昔と変わらない実りの秋の田圃風景に心のなごむ一日であった。

リポーター:

〒191 東京都日野市多摩摩 5-2-43

窪田 宏明



←12ページより続く→

す。今までも、資格問題・JOA問題・O-JAPAN問題(鹿刊のうわさが流れた時)・大会運営・計算センターなどが話題に上がりました。いま、大会のスタートリストの事前公開はどこまで許されるかで議論しています。これらの議論は結論を求めるものではありません。参加者が問題意識を持つことができ、それによって討議のレベルが深まるのです。SOL内に電子会議室を新設したので、これからはテーマ別の会議室で討議する予定です。

大会会場から大会風景や速報を書き込んだり、海外出張にノートパソコンを持参しSOLにアクセスして書き込んだ例がありますが、パソコン通信は、距離と時間を超越する魅力を持っています。

4. あとがき

SOLに参加し書き込んだのがきっかけで、まったく知らなかったOLを始めようになつた方が何人かいます。実は私もその一人です。また、「近くのPCを回りたいのでPCコースを教えてください」という声もあります。

このような経験から、SOLがOLの普及と発展のために役立つのであれば、こんなに嬉しいことはありません。これからもSOLに参加する人が増えて盛り上がることを希望しています。皆さんからも暖かくSOLを見守り、ご意見など頂けるとありがたいと思います。

情報あれこれ

□WOC93予備セレクションレースについての告示

WOC93の予備セレクションレースを以下の7レースを対象に行う。

- ①公認埼玉・小川大会 10/25 埼玉
- ②公認東日本大会 11/8 茨城
- ③千葉大会 11/22 千葉
- ④公認朝日大会 11/29 山梨
- ⑤筑波大会 12/20 茨城
- ⑥早稲田大会 2/21 埼玉
- ⑦公認全日本大会 3/21 島根

対象となるクラスは男女とも21EあるいはEクラス(最高位クラス)で、日本国籍を有する者に以下のとおり点数を与える。

●男子は上位20位までを得点の対象とし、1位は20点、2位は19点、以下1点ずつ減点し20位の者を1点とする。女子は上位15位までを得点の対象とし、1位は15点、2位は14点、以下1点ずつ減点し15位の者を1点とする。

特例① 19-20Eが21Eと同一コースだった場合は両クラスの混合順位とする。

特例② Eクラスが同レベルの2クラスに分割された場合は各クラスの1位に20点、2位に18点…10位に2点を与える。(男子の場合)

●得点の高い順に3大会の得点を合計したものをその選手の持ち点とし、男子は上位20位、女子は上位15位までを予備セレクション通過者とする。

●また、各予備セレクションレースの1位の者は、得点にかかわらず予備セレクションレース通過者とする。Eクラスが分割された時は両クラスの優勝者とも通過とする。(この特別ルールによる通過者も上記の男子20名、女子15名に含まれる。)

●ジュニアクラスの選手に対しては、19E、インカレ等の成績を考慮して、ナショナルチーム・コーチの推薦というかたちで本セレクションへの参加を認める場合がある。

主管 SQUAD

※以上の告示は、5月のAPOCのプログラムにて告示しましたが、ここにあらためて告示します。(稲葉 英雄)
※本セレクションレースの実施については、要項の決定後、直ちに本誌上でお知らせいたします。(O-JAPAN編集部)

訃報・山本 浩くん、交通事故で急死

10月28日午前7時45分頃、自転車で出勤途上の山本 浩くんが、不慮の事故に遭い3時間後に息を引き取りました。

山口大学卒業を前にした90年1月、クラブ入会と同時に公認指導員の資格を取得して、県のOL協会にも入会し積極的に活動、私達も彼の将来に大きな期待を寄せていただけに残念でなりません。先般ご案内しました「広島県OL大会兼向原町大会」の地図作成にも大きな力をかしてくれた 浩くん、23日の大会を前にしての他界は本人もさぞかし残りであったらうと思います。

兼OL協会ならびに広島OLCでは、急遽この大会を「山本 浩君追悼大会」として実施することにいたしましたので、ご参加の皆様方も、生前の彼を偲びながら「野光谷」のラインに挑戦していただきたいと存じます。

なお、告別式は10月31日、自宅で行われましたが、近隣各地より多くの仲間が参列して最後の別れをしました。OLを通じ生前の彼に寄せられた多くの方々のご厚誼に対し、ご遺族の方とともに心より感謝し、厚くお礼申し上げます。

広島県オリエンテーリング協会
広島オリエンテーリングクラブ

■O-JAPAN バックナンバー

No.55以降、No.62・65・93を除き残部があります。電話でお申し込みください。

□

□都道府県対抗リレーOL大会

各県代表選手選考会

第2回の都道府県対抗リレーOL大会は、来年2月7日に東京都で開催の予定ですが(主催または主管者からの詳細情報は、3月の全日本大会のそれとともに、当編集部では未だ受信していない)、その選手選考会などの情報を数都県よりいただいておりますので、日程等の要目のみを列記いたします。

- 千葉県 12月13日(日) 君津市
☎043-251-4659 田中 辻
☎043-241-6707 鈴木(締切) 11/29
- 東京都 12月23日(祝) 場所未定
☎0423-24-0538 高橋(締切) 12/7
- 石川県 12月6日(日) 小松市
☎0762-41-5582 県協会(締切) 11/20

編集部より

◆オリエンテーリング界の現状と将来を見据えて、編集者の「提言」を今月号で詳述させていただく予定で、先月号でもお約束したのですが、村越・桐田の両氏から「ショートタイプ0」に関する報告やご意見をいただきましたので、誌面がにぎやかになり、今回は愚見を省略しました。

◆11月8日は恒例の私の居住している地域の自治会の「オリエンテーリング大会」。今年で第6回を数えました。今回の参加者は役員も合わせて約110人程度でしょうか。受付やゴール後のことを除いてほとんど1人で運営します。ですから、ここ2~3年は運営が比較的楽なスコア形式、しかもゲーム的要素を加え、自治会員の親睦を図っています(「説明」時には、必ず「オリエンテーリングの本質」を強く、繰り返し話します)。今回はボーカー0を試み、楽しめました。ところが、この1日後に届いた北米の0誌を読むと、何と彼らも今年のUSOAの総会時の懇親ゲームで同じようなことをしているではありませんか。昨年採り入れた「ピンゴ0」(これは日本でも各地で何回か

行われているようですが) などとともに、こどもファミリー対象におすすめてきます。

「地図とコンパス」の基本的説明はいたしますが、初心者にとってはたいへん面倒なことから、最初から拒否反応を起こさせてはいけません。オリエンテーリングそのものに興味を持たず、これらは自然に身につけてくるものですから。そのうち埋草にでもいろいろな「ゲーム0」について書きましよう。◆時節がら皆様のご健勝を祈ります。

O-JAPAN 92/11
No.112 1992. 11. 10発行

発行/O-JAPAN

発行人/田口 昭子

〒233 横浜市港南区日野南7-9-5

TEL. 045-891-7004

(Annex) TEL. 0287-77-1977

FAX. 045-891-2500

郵便振替口座/横浜7-46870

(加入者名) O-JAPAN 編集部

購読料 年間4月~3月 ¥3,000

(高校生以下) ¥1,800

'92.10月~'94. 3月 ¥4,500

(高校生以下) ¥2,700

1部あたり頒布価格 ¥250

編集責任者/田口 肇

Chief Editor: Hajime Taguchi

Editorial Address:

7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

Yokohama, 233 Japan